



Title	学術誌・データのオープン化、質、逃れられない曖昧さと実践的アプローチ
Author(s)	井出, 和希
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/98413">https://doi.org/10.18910/98413</a>
rights	
Note	講演動画・質疑応答等：研究大学コンソーシアム ウェブサイト <a href="https://www.ruconsortium.jp/tf/cat2/cat/gakujyutsu_seminar_6.html">https://www

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 学術誌・データのオープン化、質、 逃れられない曖昧さと実践的アプローチ

井出和希

大阪大学

感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門

社会技術共創研究センター(ELSIセンター) 実践研究部門

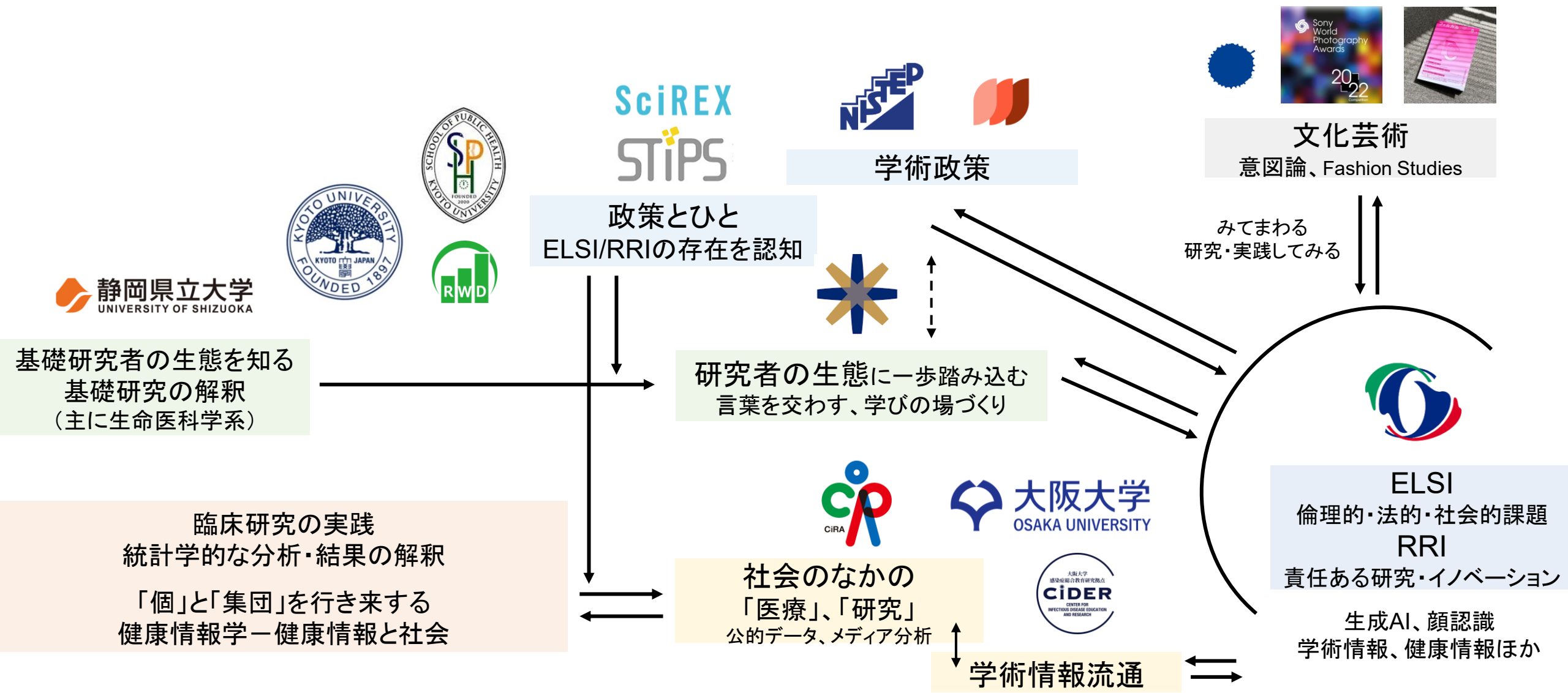
Directory of Open Access Journals(DOAJ) Editorial Policy Advisory Group

1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. オープン化と即時オープンアクセス (OA)
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに

1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. オープン化と即時オープンアクセス (OA)
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに



# 自己紹介 & 取り組んできたものごとの関係性



方法論(量と質)を押さえ、かたちとして残していく  
研究(者、の価値)とは？

# 本日のセミナーでお伝えしたいこと

(データの話にも少し触れますが) 話題の中心は  
オンライン化・オープン化により問題が顕在化した「**学術誌の質**」とし、

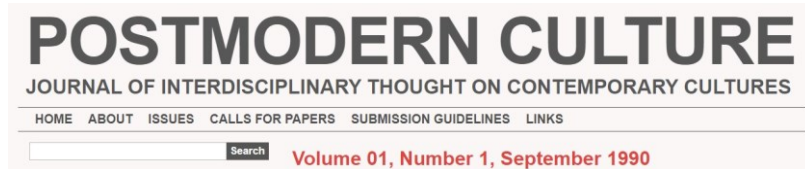
**学術誌の質(よしあし)を二値的に判断することはできない**  
「観点」を参考に主体的に判断し、判断の過程を言語化できることが肝要  
(＝なぜ投稿/参照するのか、しないのか)

ウォッチリストやセーフリストを求める声が多いことは分かるが、  
**リストに基づいて判断できるかのようなコミュニケーション、情報提供は避けたい**

その理由を説明したり、コミュニケーションや情報提供に変化が生まれたりするきっかけになれば嬉しいです  
・・・まずは、オープン化にまつわる話から

1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. **オープン化と即時オープンアクセス(OA)**
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに

# 商業出版社の台頭、学術誌の興隆、オープンアクセス化



戦後、**1960年代以降**に躍進

E: 1880年設立、1947年にBiochimica et Biophysica Acta (BBA)を刊行、  
**現在では3650誌を刊行**

SN: 1842年設立、  
**現在では3000誌以上を刊行**

We have  
3000 +  
Journals  
7 million +  
Articles

**1990年以降**、OA誌/出版社が出現

1999年 BioMed Central (BMC) **250誌以上**  
2003年 Public Library of Science (PLOS)  
— **次第に存在感を増していく**



# オープンアクセス型学術誌の活用は進む

PLOSは2017年に累計  
20万報を突破<sup>1</sup>

**2024年10月**28日現在

PLOS ONEだけで**30万報+**

200,000

BMCは2020年に累計  
31万報を突破<sup>2</sup>

**2024年10月**28日現在**66万報**

BMC is part of Springer Nature

BMC published papers  
in the past 20 years

**316,531**

Number of citations over  
the past 20 years

**5,100,542**

(旧)Hindawiは2021年に累計  
出版論文数が**34万報を突破**<sup>3</sup>

2021年 Wileyが買収

**2023年 8,000報以上取り下げ**—**ペーパーミルの関与**<sup>4</sup>・・・CEO退任



Hindawi

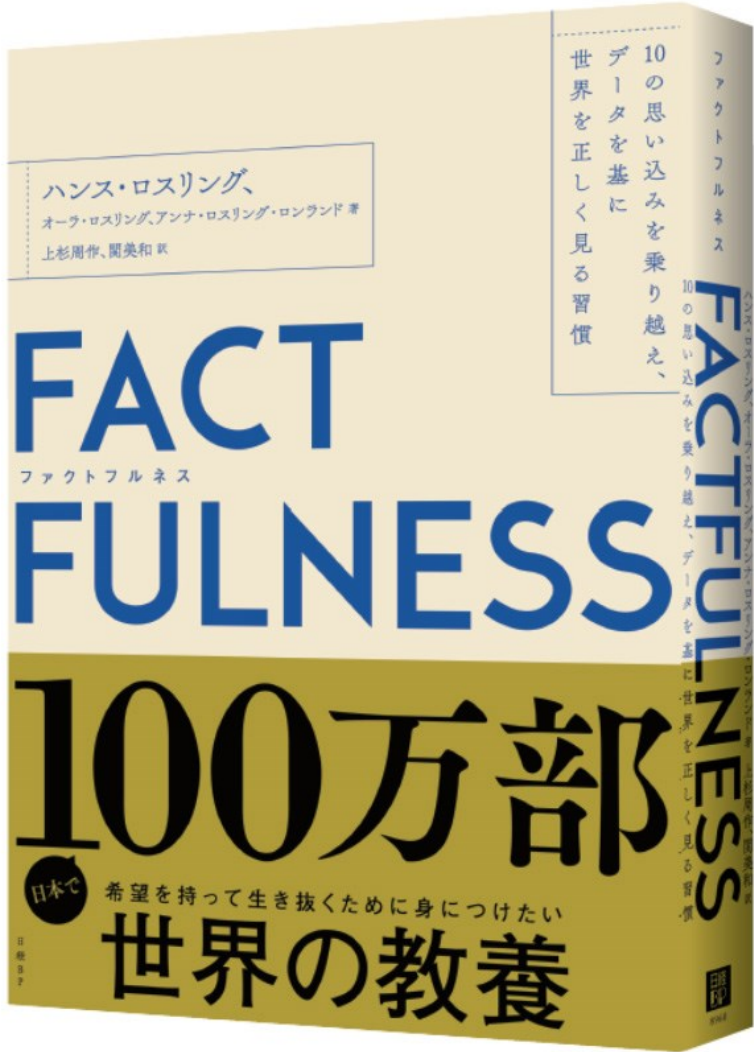
WILEY

1. The Official PLOS Blog. <https://bit.ly/3PWGBxK/> 2. BMC. 20th Year Anniversary Infographic. <https://bit.ly/3Sixp8y>

3. Scilit. Hindawi Limited. <https://www.scilit.net/publisher/44>

4. Noorden RV. More than 10,000 research papers were retracted in 2023 — a new record. Nature. 2023; 624: 479-481.

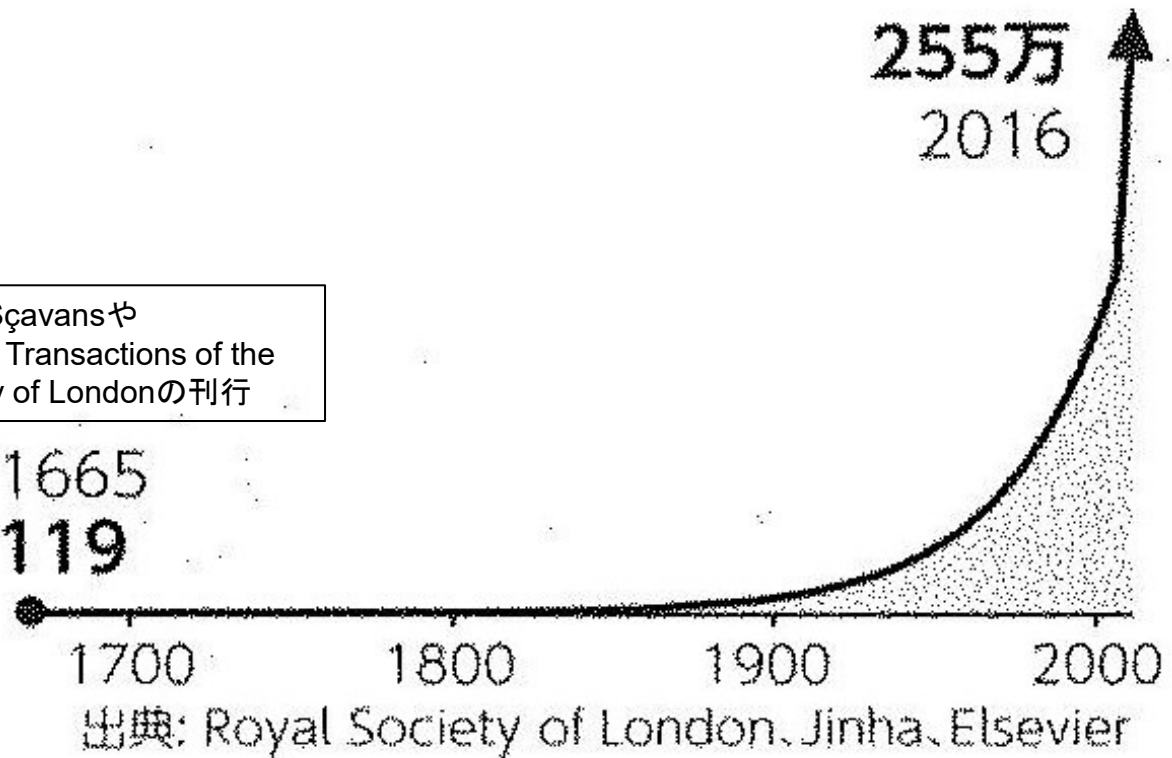
学術論文の数:「増え続けている16の**良いこと**」・・・？



科学の発見 ？

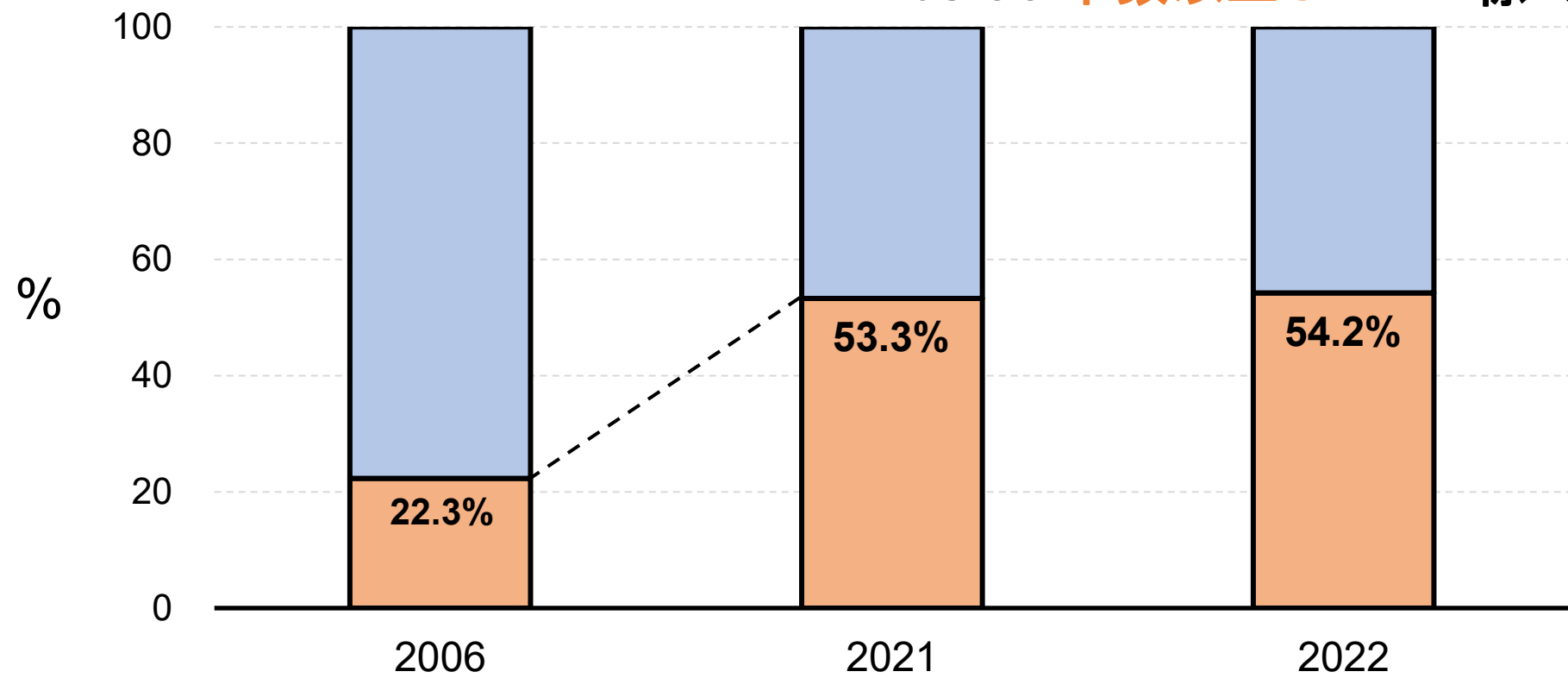
1年間に発表される学術論文の数

Journal des Sçavansや  
Philosophical Transactions of the  
Royal Society of Londonの刊行



# オープンアクセスはどのくらい普及した？

WoS CC 半数以上OA = 徐々に一般的なものに



年	合計収載論文数	オープンアクセス, n (%)	非オープンアクセス, n (%)
2006	1,066,185	237,895 (22.3)	828,290 (77.7)
2021	2,819,926	1,502,261 (53.3)	1,317,665 (46.7)
2022	2,641,796	1,433,033 (54.2)	1,208,763 (45.8)

# オープン化といえば・・・即時OA

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議  
令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策

## 即時OA 2025年度公募～

令和6年2月21日  
令和6年10月8日改正  
関係府省申合せ

改正版

学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度（科研費等）を対象とし、

- ✓ “基本方針における即時オープンアクセスの「**即時**」とは、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後の、**公開禁止期間（エンバーゴ）がないこと**をいう。”
- ✓ “「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載を求める根拠データは、基本方針に示している「掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる」掲載学術論文の根拠データをいう。Supplemental Data等の**公表を前提としているデータ**であり、査読の過程等で求められるデータ等公表を前提としていないデータは含まない。”

# オープン化といえば・・・即時OA

“～**公開禁止期間(エンバーゴ)がないこと**をいう。”・・・ある場合は？  
e-Rad等での実績報告において、即時OAが困難な理由を選択

## 2. 学術論文及び根拠データの「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載

“掲載する学術論文及び根拠データは、**出版社版**又は**著者最終稿**に該当するものとする”  
= **未査読のプレプリント版ではダメ**なところには留意

**Jxiv**にも触れられている(当初は未査読論文のみだったが、2024年3月規約改定):

“JSTが運営する査読前論文(プレプリント)をインターネット上で無料公開するシステム(プレプリントサーバ)。**査読後の論文**(査読コメント等を反映している論文や公開・出版済み論文)についても、**学術出版社等の許諾が得られた場合はJxiv上での公開が可能。**”

・・・活用、進むかも？微妙？

関係府省申合せ.「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定)の実施にあたっての具体的方策. [https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6\\_0221/hosaku.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf)

Ide K. Japan can embrace open science — but flexible approaches are key. Nature. 2024; 629: 286.



とはいえ、即時OAはあまり知られていない・・・？

エディテージ(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)の利用者を中心とした、  
**論文出版経験がある研究者1,012名**を対象とした調査を参照

調査期間：2024年8月27日～9月6日

以下のカテゴリ分類は調査に原資料に従う

年代：**40代 38%**、30代 26%、50代 23%

属性：**教員・研究員(常勤) 66%**、教員・研究員(任期付き) 12%、医師・医療従事者 9%

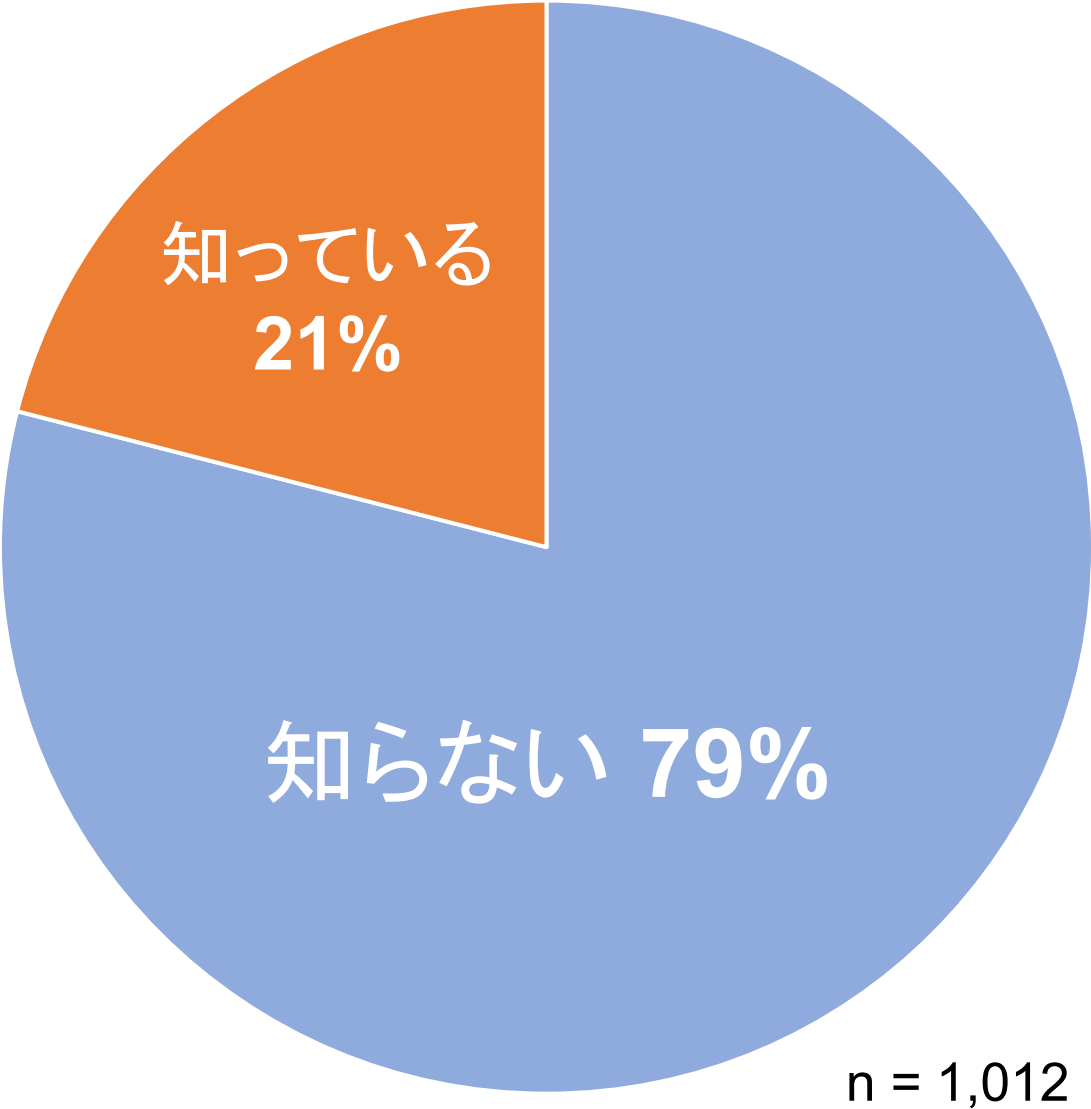
分野：**医歯薬 43%**、工学 14%、生命科学 14%

(ちなみに、社会科学 7%、人文学 6%)

常勤/非常勤と任期付き/任期無しの対応関係が気になるというのはさておき

**結果をみると・・・**

即時OAはあまり知られていない



知ってすぐ対応しなくてはならない  
研究者が多数生じると想定される

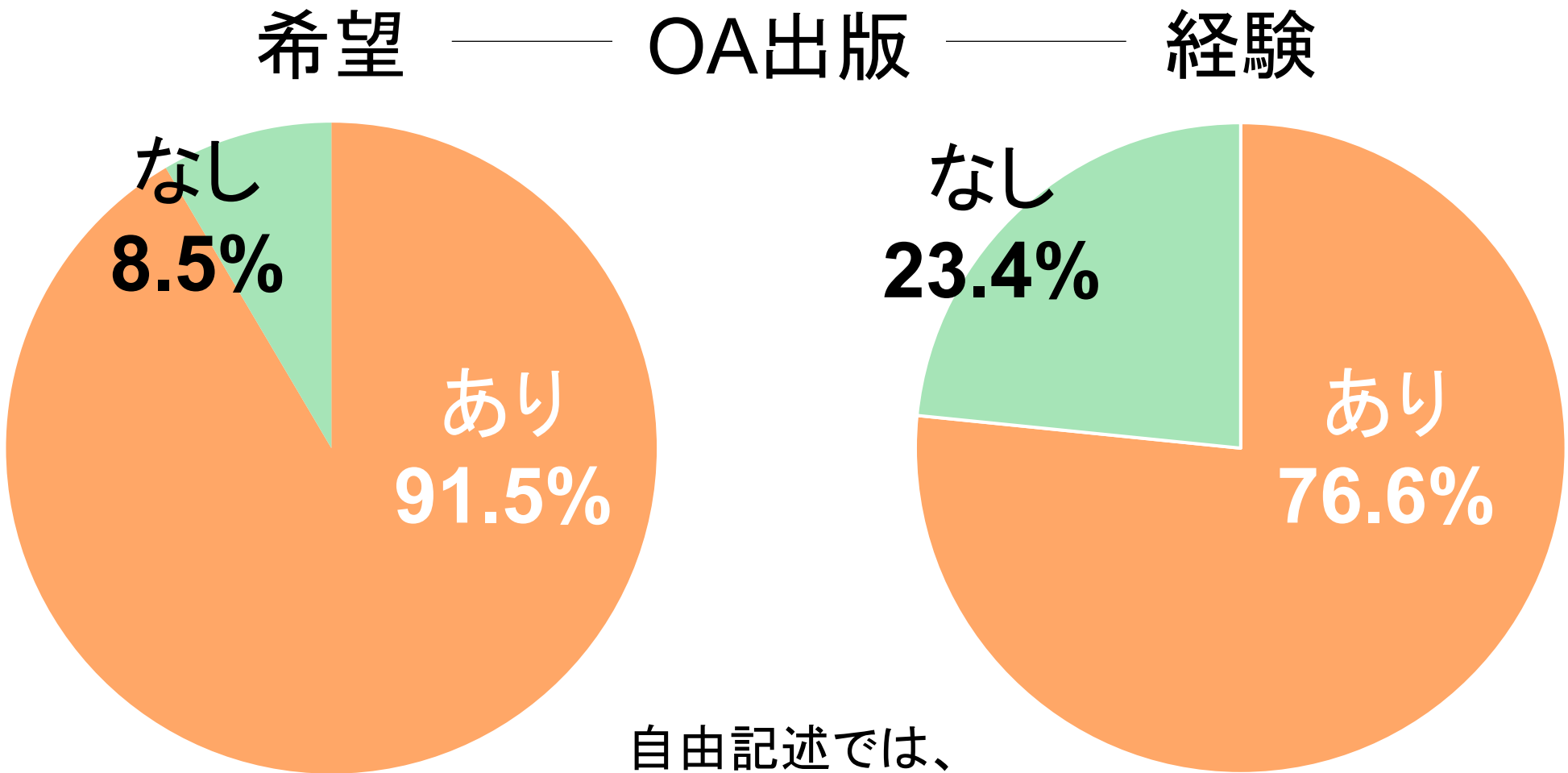
掲載料 (Article Processing Charge, APC)  
を考えなければ、  
即時OAに対応可能な学術誌自体は多いが

制約もあるなかで  
**学術誌の「質」を考える過程**が  
一層重要に・・・**好機**とできるか  
＝研究の価値を他者に委ね過ぎないために

単に「リスト」(?)を参照して  
**作業工程を1つ増やすだけにしてしまっは  
もったいない**

# オープンアクセス化への希望と障壁

分子生物学会との共同調査(2022年、624名)においても、(予算的)制約が窺われた



自由記述では、  
**予算面の障壁**が複数指摘された

費用負担の大きさは、俯瞰した情報からも推察される

## 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）による調査

OA論文数/公表論文数

**2020年: 34,004/81,358 (41.8%)**

**2022年: 41,651/85,088 (49.0%)**

日本のAPC支払い推定額

**2020年: 5,753,801,024円 (約57億円)**

**2022年: 10,348,467,544円 (約100億円)**

1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. オープン化と即時オープンアクセス (OA)
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに

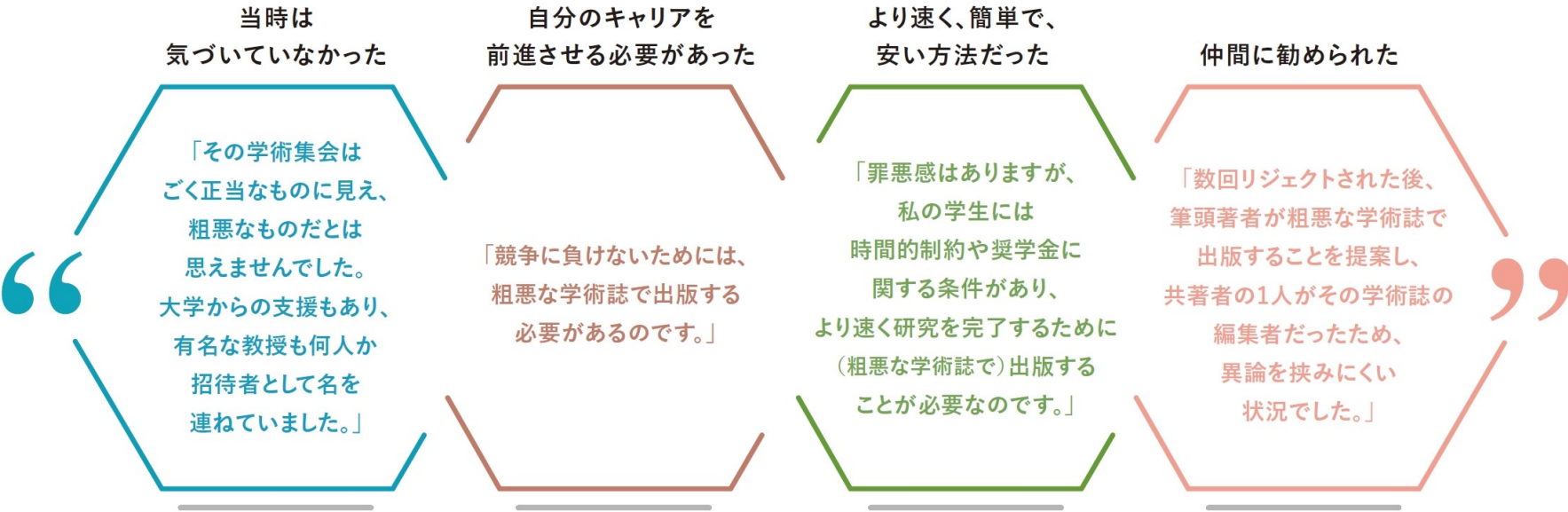




OA誌/出版の一般化と共に2010年頃～問題が顕在化<sup>1</sup>  
研究者側の抱える出版へのプレッシャーと出版社側の参入障壁低下<sup>2</sup>

**Predatory Journal**(プレダトリージャーナル、粗悪な学術誌)

112か国、>1800名(IAP調査)では  
**回答者の24%**が、  
粗悪な学術誌での出版経験や  
学術集会への参加経験がある  
or このような経験があるかどうか  
分からないと回答<sup>3</sup>



1. Beall J. Medical publishing triage - chronicling predatory open access publishers. Ann Med Surg (Lond). 2013; 2: 47-9.  
2. Noorden RV. Open access: The true cost of science publishing. Nature. 2013; 495: 426-429.  
3.井出和希, 林和弘, ホーク・フィリップ, 清水智樹. 粗悪な学術誌・学術集会を掲げないために. IAP 2023: 27pp. doi: <https://doi.org/10.18910/91457>

# 粗悪な学術誌を取り巻くメディア

私は好ましくないと考えるが、  
**ハゲタカジャーナル、悪徳雑誌**と呼ばれることも・・・

急増する粗悪学術誌「ハゲタカジャーナル」に複数  
共通点 文科省調査

 鳥井真平 | 環境・科学 | 速報 | 科学・テクノロジー

2024年10月18日

 **毎日新聞** 

数(約**17,000誌**)に注目が集まりがちだが、  
**観点にも徐々に焦点があてられるように**

ただし、「一部の大学はハゲタカ誌に論文が載っても業績と認めないなど厳しい対応を取る一方、ほとんどの大学が研究者への**注意喚起にとどまっている**」のは、  
**(概ね)当たり前のこと＝二値的な判断は無理** → **「ハゲタカジャーナル」はなぜ好ましくない？**  
〇〇は良い、△△はダメに要注意

# 「粗悪さ」のグラデーション

二値的な判断をしない

悪徳である前提では

- ✓ 自己の利益を優先
- ✓ 査読やその過程が不十分
- ✓ 誤解を招くインパクト指標
- ...

ほんとうに全て悪徳か  
スペクトラムアプローチにより  
質の程度を考える

→ 言語化

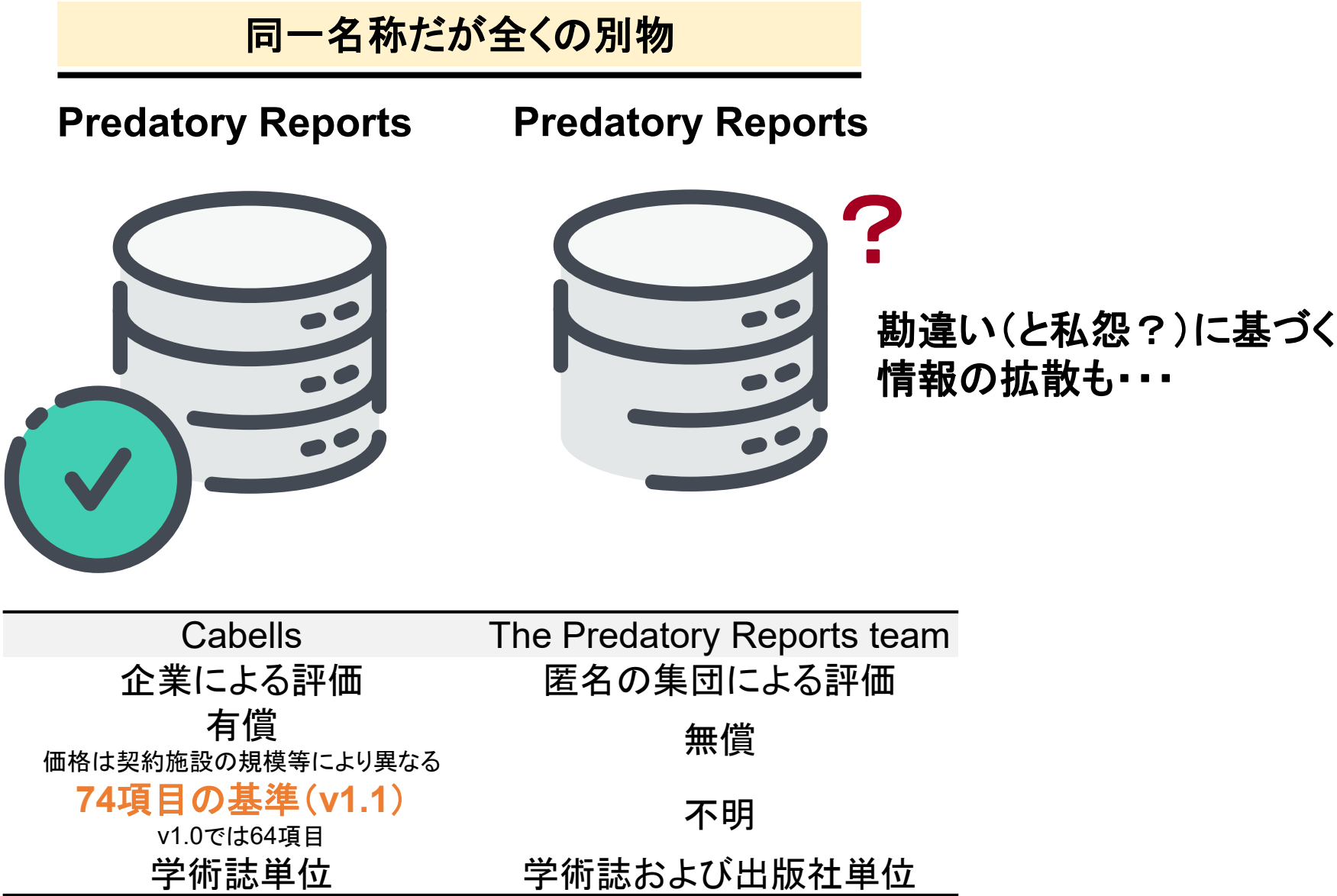


リソース不足による  
(改善途上の)質の低さ、新興分野を  
切り捨てない

質は動的＝変化する

これらの前提を忘れずに、特徴や資材、データベースを活用する

# 前提を忘れてしまう「危うさ」事例：その1



前提を忘れてしまう「危うさ」事例：その2

NEWS | 22 October 2024

# Journals with high rates of suspicious papers flagged by science-integrity start-up

Scitility's tool Argos identifies work whose authors have a record of misconduct.

Interactive Dashboards (updated daily)  
→ Imprint Summary (Order by High Risk Articles)  
→ 高リスク論文と出版社の関係を参照できる  
出版数による影響を受けることには留意を

Reason(s):

Author Unresponsive

Concerns/Issues About Image

Plagiarism of Image

Unreliable Results

- 2024年9月に開始されたArgos (Scitility社)
- リスクスコアの算出
  - 著者の出版履歴
  - 撤回は悪質性(=捏造等かどうか)を考慮
  - 論文が撤回された研究を多く引用しているか
- 高いスコア＝論文の質が低い、とは言い切れない**

あくまで、  
〇〇はいい/わるい、とは言い切れないことの参考に

有名どころも並んでいる



# 二値的に判断できないことを踏まえて、粗悪な学術誌の特徴を知る



- 2017年(約4,000誌から)提供開始
- 現時点で唯一の商用データベース
- 2024年10月29日現在、18,970誌  
分析対象時点(2022年12月8日)では、16,829誌
- 多様な分野(97分野)を対象としている
- オープンアクセス誌が16,475誌(97.9%)  
収載誌のほとんどはオープンアクセス  
掲載料による収益の確保という観点から合理的

医学、生命科学、工学領域が収載数トップ3分野

順位	領域	n(%)
1	医学(Medicine)	6,192(36.8)
2	生命科学(Biological Science)	3,625(21.5)
3	工学(Engineering)	2,262(13.4)
4	人文学/人文科学(Humanities)	1,326(7.9)
5	コンピュータサイエンス(Computer Science)	1,279(7.6)
6	化学(Chemistry)	1,275(7.6)
7	経営学(Management)	978(5.8)
8	経済学(Economics)	673(4.0)
9	ファイナンス/金融学(Finance)	672(4.0)
10	物理学(Physics)	636(3.8)

\*学術誌によっては、複数分野に分類される

どのような特徴が多く観察される？

大項目	程度	小項目一違反項目	n(%)
1 アクセスと著作権	中	デジタル保存のためのポリシーがない	14,315(72.2)
2 出版慣行	重	論文が掲載されていない、またはアーカイブに号や論文がない	10,252(51.7)
3 査読	重	雑誌のウェブサイトに査読方針が明記されていない	8,902(44.9)
4 ウェブサイト	軽	ウェブサイトに出版社の住所が明記されていない、または偽の住所が記載されている	7,583(38.2)
5 出版慣行	重	ウェブサイトに編集者や編集委員会の名前が全くない	7,105(35.8)
6 ウェブサイト	軽	ウェブサイトに編集部の物理的な住所が記載されていない	6,044(30.5)
7 出版慣行	中	出版社が、迅速な出版や異常に早い査読(4週間以内)を約束するような文言を目立つように表示している	5,954(30.0)
8 ウェブサイト	軽	ジャーナルや出版社のウェブサイトの文法やスペルが稚拙	5,438(27.4)
9 誠実さ	軽	剽窃、自己剽窃、画像加工などを繰り返す原因となる著者の不正行為の防止と排除に十分な資源が使われていない(剽窃、倫理、不正行為などに関する方針がない、剽窃防止スクリーンが使用されていない)	3,276(16.5)
10 ウェブサイト	軽	ジャーナルまたは出版社が、バーチャルオフィスやその他の代理事業を物理的な住所として使用している	3,049(15.4)

\*軽度だから許容されるというものではない

# データベースの問題点には留意 & あくまで観点を参考に

質に関連した代表的な問題点としては・・・<sup>1</sup>

- ✓ **分野表記に誤字脱字、一貫性の欠如**がある  
例えば、“Engineering”、“Computer Science” と “Computer Sciences”
- ✓ 違反項目の**記載が重複**している場合がある
- ✓ 評価基準の更新と評価**時期が前後**している場合がある  
＝評価日より後に評価基準ができているという矛盾  
基準の変更は軽微なもので評価への影響は限定的であるとはいえ・・・
- ✓ **評価基準に含まれていない項目**が存在する

その他・・・

- ✓ **数年前に評価されてそのままの学術誌もある**
- ✓ **項目ごとの具体的なスコアや設定根拠が不明**である  
合計100点に達するとプレダトリー判定らしい<sup>2</sup>

1. Bisaccio M. Cabells' Journal Whitelist and Blacklist: Intelligent data for informed journal evaluations. Learn Publ. 2018; 31: 243-248.

2. 井出和希, 林和弘, 小柴等. プレダトリージャーナル判定リストの実態調査. NISTEP RESEARCH MATERIAL. 2023: No.326 (27 pp).

# 「粗悪さ」をリスクベースに考える





# チェックリストも「粗悪さ」を二値的に判断してくれない

<https://doi.org/10.18910/93181>

2023 年 12 月 1 日公開

## 論文投稿先検討のための チェックリスト

2023 年 6 月版

翻訳：井出和希<sup>a\*</sup>，中山健夫<sup>b</sup>

a 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 (CiDER) 科学情報・公共政策部門 / 社会技術共創研究センター (ELSI センター) 実践研究部門 / 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)  
b 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 / 医学部付属病院倫理支援部

\* ide-k@cider.osaka-u.ac.jp, ide.kazuki.2r@kyoto-u.jp



どのような観点で考えるかの参考に  
＝判断の理由を言語化する

PDF 版  
無料公開中



全部チェックが付かないとダメ、  
ではない

- ✓ 世界中でより多くの研究が出版されています
- ✓ 毎週新しい出版社が設立されています
- ✓ 多くの研究者が粗悪な(悪徳である場合を含む)出版(predatory publishing)に懸念を抱いています
- ✓ 出版先を選ぶ際に、最新のガイダンスを見つけることは難しいでしょう

註：医学雑誌編集ガイドライン2022(日本医学会 日本医学雑誌編集者会議)においては、悪徳雑誌とされている([https://jams.med.or.jp/guideline/jamje\\_2022.pdf](https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf))。InterAcademy Partnership(IAP)の報告書(井出和希, 林和弘, ホーク・フィリップ, 清水智樹(訳)。粗悪な学術誌・学術集会を拡げないために。IAP, 2023: 27pp. <https://doi.org/10.18910/91457>)においては、**より広義には悪意の有無を問わない**概念であることが指摘されている。

# どのような観点が含まれる？（一部抜粋）！



## CHECK

### 大項目：

- ✓ あなたやあなたの同僚は、そのジャーナルを知っていますか？
- ✓ 出版社を簡単に特定し、連絡を取ることができますか？
- ✓ そのジャーナルはどのような形式の査読を採用しているか明確ですか？
- ✓ 論文は専門のサービスで索引づけやアーカイブ化が為されていますか？
- ✓ どのような費用が請求されるのか明確ですか？
- ✓ 出版社のウェブサイトに著者のためのガイドラインはありますか？
- ✓ 出版社は、業界で認知された取り組み (initiative) のメンバーですか？

### あなたやあなたの同僚は、そのジャーナルを知っていますか？

- ジャーナルの**名称**：名称は独自のもので、他のジャーナルと同じであったり、混同され易かったりしませんか？
- **ISSN ポータル**のそのジャーナルに関する情報と照合できますか？

### 出版社を簡単に特定し、連絡を取ることができますか？

- ジャーナルのウェブサイトに**出版社名**が明記されていますか？
- 出版社に電話、電子メール、郵便で**問い合わせ**ができますか？

### そのジャーナルはどのような形式の査読を採用しているか明確ですか？

- 独立/外部査読者の関与の有無、**一論文あたりの査読者数**について、ウェブサイトに記載されていますか？
- その出版社は、専門家による編集委員会や専門分野の研究者による**審査**を行っていますか？
- そのジャーナルは受理や**非常に短い査読期間を保証していません**

## どのような観点が含まれる？（一部抜粋）Ⅱ

論文は専門のサービスで索引づけやアーカイブ化が為されていますか？

- あなたの論文は、見つけやすいデータベースに索引付けられ／アーカイブ化されますか？
- 出版社は、デジタル出版物の長期的なアーカイブとその維持を保証していますか？
- 出版社は永続的なデジタル識別子を使用していますか？

どのような費用が請求されるのか明確ですか？

- ジャーナルのサイトでは、これらの費用が何に使われ、いつ請求されるのか説明されていますか？
- 諸費用の通貨および金額は明記されていますか？
- 出版社のウェブサイトに、（費用の）免除の有無について説明がありますか？

出版社のウェブサイトに著者のためのガイドラインはありますか？

- オープンアクセスジャーナルの場合、出版社は明確なライセンスポリシーを持っていますか？
- 出版社は、あなたが自分の論文の著作権を保持することを認めていますか？  
また、どのような条件で、例えば機関リポジトリを通じて論文を共有することができますか？
- 出版社には、著者、編集者、査読者の潜在的な利益相反(COI)に関する明確なポリシーがありますか？
- ジャーナルは、利用状況や被引用数の指標に関する情報を提供していますか？





# どのような観点が含まれる？（一部抜粋）III

## 出版社は、業界で認知された取り組み(initiative)のメンバーですか？

- ❑ 現在、**Committee on Publication Ethics(COPE)**のメンバーであり、そのガイドラインに従っていますか？
- ❑ そのジャーナルがオープンアクセスの場合、**Directory of Open Access Journals(DOAJ)**に収載されていますか？
- ❑ 出版社がオープンアクセス・オプションを提供している場合、  
その出版社は**Open Access Scholarly Publishers' Association(OASPA)**の現在のメンバーですか？
- ❑ そのジャーナルは、INASP の Journals Online プラットフォーム(バングラデシュ、ネパール、スリランカ、中央アメリカ、モンゴルで出版されたジャーナル向け)、または African Journals Online(AJOL、アフリカのジャーナル向け)のいずれかにホストされていますか？
- ❑ ジャーナルがオープンアクセスの場合、Scielo(ラテンアメリカの科学ジャーナル向け)にホストされていますか？
- ❑ そのジャーナルがオープンアクセスの場合、Latindex(ラテンアメリカ、カリブ海諸国、スペイン、ポルトガルで出版されるジャーナル向け)に収載されていますか？
- ❑ そのジャーナルがオープンアクセスの場合、Redalyc(ラテンアメリカ、カリブ海諸国、スペイン、ポルトガルで出版されたジャーナル向け)に収載されていますか？



# DOAJの情報＝スクリーニングを通過した学術誌の特徴は？

SUPPORT  APPLY  SEARCH 


PLoS ONE  
PLOS ONE

1932-6203 (ONLINE)

[Website](#) [ISSN Portal](#)

About Articles

### セーフリストとしての活用には留意を



#### PUBLISHING WITH THIS JOURNAL



\$ The journal charges up to:

**2290 USD**


as [publication fees](#) (article processing charges or APCs).

There is a [waiver policy](#) for these charges.

#### BEST PRACTICE


 This journal began publishing in **open access** in 2006. 

This journal uses a **CC BY** license.





→ Look up their [open access statement](#) and their [license terms](#).


#### JOURNAL METADATA

 Publisher  
[Public Library of Science \(PLOS\)](#), United States

Manuscripts accepted in English

 LCC subjects   
[Medicine](#)  
[Science](#)

Keywords  
[science](#) [medicine](#) [engineering](#)  
[social sciences](#)

 Look up the journal's:

- [Aims & scope](#)
- [Instructions for authors](#)
- [Editorial Board](#)
- [Anonymous peer review](#)


→ This journal [checks for plagiarism](#).

**シール付き＝ベストプラクティス認定**  
条件：長期保存のベストプラクティス、  
永続的識別子の使用、発見可能性、  
再利用ポリシー、著者の権利



## 学術誌の運営状況を 一覧できる


出版費用、Aim & Scopeなど  
ライセンス  
出版社  
領域とキーワード  
識別子(DOI)...


13,577 JOURNALS WITHOUT FEES	20,586 JOURNALS
+ 80言語	







OPEN  
GLOBAL  
TRUSTED

SUPPORT  

APPLY 

SEARCH 

SEARCH DOCUMENTATION ABOUT 

LOGIN 

APPLY

## Guide to applying

Before you start the application process, you will be asked to log in or register. You can save your progress and review all your answers before you submit them. To help you, a [PDF list of the questions](#) is available for download.

### Basic criteria for inclusion

### The type of journal that can apply

Open access journals published in any language may apply. Journals should adhere to the [Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing](#).

- The journal must be actively publishing scholarly research
  - Any research subject area
  - Publish at least five research articles per year
  - Primary target audience of researchers or practitioners
- Newly launched journals
  - Before applying to DOAJ, a new or flipped journal must demonstrate a publishing history of more than one year or have published at least ten open access research articles.

JUMP TO:

Basic criteria for inclusion

Additional criteria for some journal types

The application process

If your application is rejected

Appeals

In other languages

Version history

参照・投稿しようとしている  
学術誌がどのようなものかを  
考える際にも基準が参考になる



1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. オープン化と即時オープンアクセス (OA)
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに

# データの質、共有と「flexible」さの意図

## nature

CORRESPONDENCE | 07 May 2024

### Japan can embrace open science — but flexible approaches are key

「flexible」さは、  
データに関する言及

#### 質 (quality):

1. the standard of sth when it is compared to other things like it; how **good or bad** sth is
2. **a feature** of sb/sth, especially one **that makes them different** from sb/sth else

Oxford Advanced Learner's Dictionary

#### 即時OA文脈(具体的方策、10月8日改正)

- ✓ 「掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる」掲載学術論文の根拠データ・・・Supplemental Data等の**公表を前提としているデータ**
- ✓ **オープン・アンド・クローズ戦略**に基づいて実施される・・・従来公開していなかった研究データを「根拠データ」として公開を新たに求めるものではない

→それほど問題になる部分はないが・・・

# 科研費データ管理 & G7コミュニケも鑑みた、オープン・アンド・クローズ戦略

## 科研費における研究データの管理・利活用について (JSPS)

- 令和6(2024)年度以降に実施する  
新規及び継続を含む全ての研究課題
- 「科研費での研究の実施にあたっては、**研究データの管理計画書であるデータマネジメントプラン(DMP)**を活用し、研究データの適切な管理や利活用の促進に努めていただきます。」
- ✓ 論文の**エビデンス**としての**研究データは原則公開**とし、その他研究開発の成果としての研究データについても可能な範囲で公開することが望めます。
  - ✓ ただし、その際、**研究分野等の特性**や、データを管理する組織の特性に配慮して、「**公開**」、「**共有**」又は「**非共有・非公開**」の判断が行われる必要があります。



2023年5月  
The communique from the G7 Science and Technology Ministers' Meeting, held in Sendai, Japan, last May, expressed support for “**immediate open and public access to government-funded scholarly publications and scientific data**”

- ✓ 「データ」といっても様々な特徴をもつ
- ✓ なぜ公開できるのか、できないのか
- ✓ データの「質」をどう担保するか
- ✓ **メタデータによる透明性、追跡性向上、二次利用の機会増**  
・・・どこまで整備できるか

1. 自己紹介 & お伝えしたいこと
2. オープン化と即時オープンアクセス (OA)
3. 学術誌の「粗悪さ」のもつグラデーションと実践的アプローチ
4. データの質、共有と「flexible」の意図
5. おわりに

## おわりに

- ✓ 研究成果のオープン化が加速するなかで、  
「**学術誌の質(よしあし)を二値的に判断することはできない**」ことの理解が一層重要に
- ✓ 即時OAを**学術誌の「質」**考え、言語化する**好機**とできるか
- ✓ 「**粗悪さ**」の**グラデーション**は特徴から捉える
- ✓ データベースや資材は、特徴の言語化に伴走するもの  
**よしあしを判断してくれるものではないというコミュニケーション**が肝要
- ✓ データの「**質**」は、いわゆる品質の高低だけではない  
なぜ公開するのか、しないのか  
**オープン**であることは常に「**よきこと**」か  
メタデータ整備による透明性、追跡性向上、二次利用の機会増に繋がられるか

ほらいずん

オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する  
「Predatory Journal」問題  
ー実態、動向、判断の観点ー

データ解析政策研究室 客員研究官 井出 和希\*、室長 林 和弘

調査資料-326

プレダトリージャーナル判定リストの実態調査

2023 年 3 月

注)提言の内容にすべて同意するわけではない  
印刷版もあり、ご希望の方はお声がけを



粗悪な学術誌・学術集会を  
拡げないために



サマリーレポート（増補版）





# その学術誌、大丈夫？

Think. Check. Submit.  
日本語版はこちら



高リスク

低リスク

リスクベーストに  
学術誌の質を考える

<https://doi.org/10.18910/93181>

2023 年 12 月 1 日公開

## 論文投稿先検討のための チェックリスト

2023 年 6 月版

翻訳：井出和希<sup>a\*</sup>，中山健夫<sup>b</sup>

<sup>a</sup> 大阪大学 感染症総合教育研究拠点（CIDER）科学情報・公共政策部門 / 社会技術共創研究センター（ELSI センター）実践研究部門 / 文部科学省 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）  
<sup>b</sup> 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 / 医学部付属病院倫理支援部

\* ide-k@cider.osaka-u.ac.jp, ide.kazuki.2r@kyoto-u.jp



COMMENTARY | Free Access

## Researchers support preprints and open access publishing, but with reservations: A questionnaire survey of MBSJ members

Kazuki Ide Jun-ichi Nakayama

First published: 06 March 2023 | <https://doi.org/10.1111/gtc.13015>

Communicated by: Eisuke Nishida

井出和希, 中山健夫. その学術誌、大丈夫？ 2024. <https://doi.org/10.18910/94925>  
井出和希, 中山健夫. 論文投稿先検討のためのチェックリスト(2023年6月版). Think. Check. Submit. 2023. <https://doi.org/10.18910/93181>  
Ide K, Nakayama J. Researchers support preprints and open access publishing, but with reservations: A questionnaire survey of MBSJ members. Genes Cells. 2023; 28: 333-337.

# Japan can embrace open science — but flexible approaches are key

## Japan’s push to make all research open access is taking shape

Japan will start allocating the ¥10 billion it promised to spend on institutional repositories to make the nation’s science free to read.



「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策

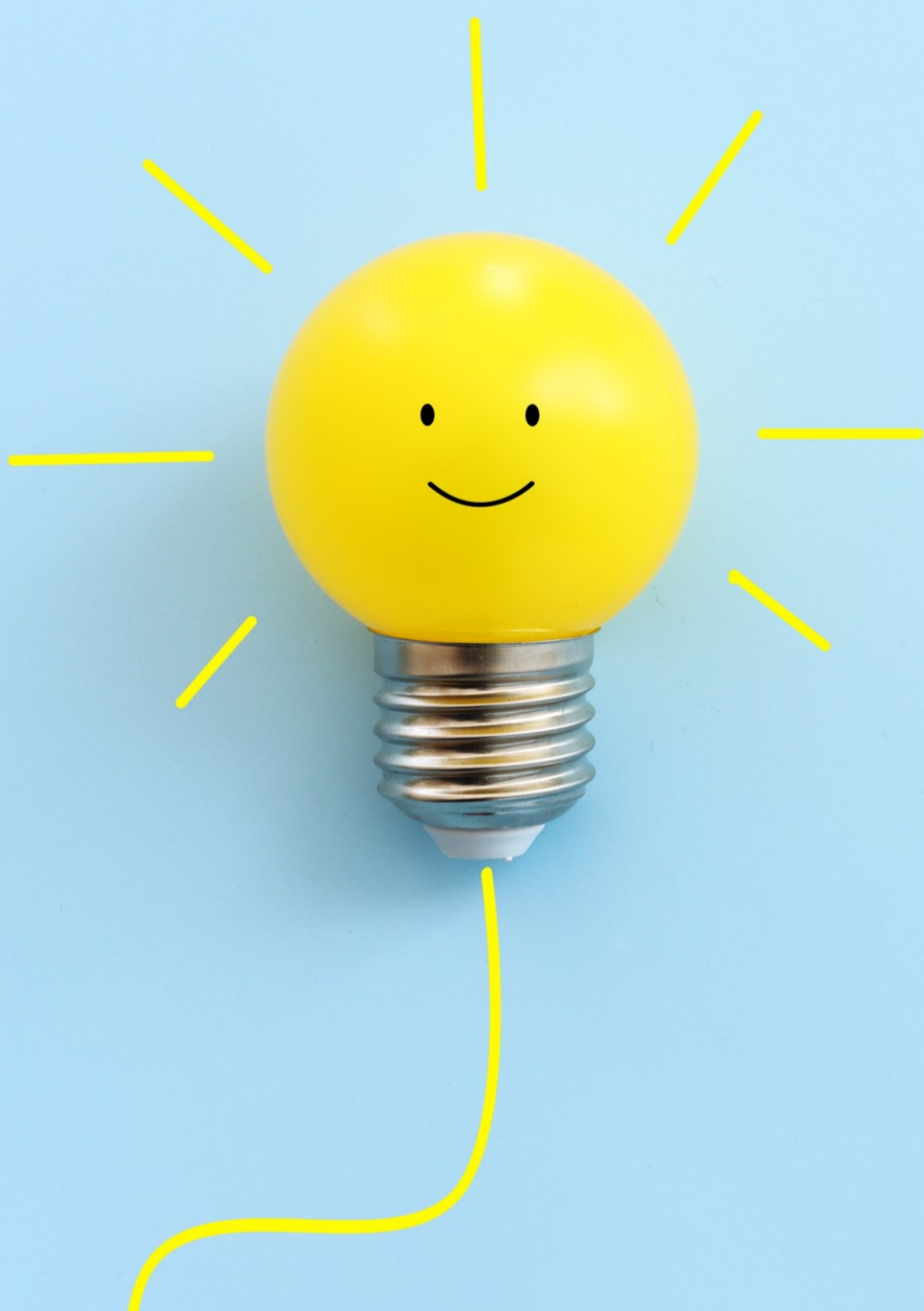
令和6年2月21日  
令和6年10月8日改正  
関係府省申合せ

Ide K. Japan can embrace open science — but flexible approaches are key. Nature. 2024; 629: 286.  
Chawla DS. Japan's push to make all research open access is taking shape. Nature. 2024. doi: 10.1038/d41586-024-01493-8  
G7 Science and Technology Ministers’ Communique. [https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/g7\\_2023/230513\\_g7\\_communique.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/g7_2023/230513_g7_communique.pdf)  
関係府省申合せ. 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策. [https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6\\_0221/hosaku.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf)



疑問＆質問、体験談、もやもや、関係あること＆ないこと、ご自由に





ご清聴いただき、ありがとうございました